

4年の収穫は
「心の成長」

国学院での学び集大成

大学4年生にとって学生生活は残り3カ月余りとなった。学業や課外活動、アルバイト、そして進路選択・就職活動（就活）と、学生たちはどのような時間を渋谷、たまプラーザのキャンパスで過ごし、成長してきたのだろうか。そして歩んできた道はどのような未来につながっているのだろうか。

大手都市銀行から内定を受けた石戸明日香さん（経4）は、「留学やアルバイトなど異なる環境が刺激になった。大学生活は向上心や自信を与えてくれ、世界が広がったことが就活の結果にも結びついた」と話す。製菓大手ブルボンに進む濱田将吾さん（法4）は「部活の軟式野球で、挫折を乗り越え全国大会に出場した体験が大きい。副主将に選ばれたことで周囲の声に耳を傾けるよう自分を変えることもできた」と振り返る。

成長を遂げた2人は、「内定者アドバイザー」として就活に悩む後輩のサポートに取り組んでいる。2人が獲得した「心の成長」は就活にとどまらず、今後の人生に大いなる広がりをもたらすはずだ。【4、5面詳報】



研究開発推進機構10周年講演会

研究の蓄積を振り返る



研究開発推進機構10周年記念公開学術講演会で講演するハーバード大のハーデカ教授

「研究開発推進機構」（井上順孝機構長）の発足10周年記念公開学術講演会が11月25日、渋谷キャンパス学術メディアセンター常磐松ホールで開催され、機構と縁の深い研究者による講演に来場者は熱心に耳を傾け「10年の蓄積」を振り返った。

開会の辞で井上機構長が「今回は機構の特色の一つである神道と国学院大学博物館に関連した講演を計画した」と挨拶。続いてハーバード大学のヘレン・ハーデカ教授が「英語圏における神道研究のいま」、本学の小林達雄名誉教授が「縄文の哲学思想」と題して講演した。

講演会終了後、若木タワ有栖川宮記念ホールで同機構10周年祝賀会が開催され、挨拶に立った赤井益久学長が「研究の礎となり、教育の花を咲かせる牽引役になってほしい」と述べた。

【2面関連記事】

みはるかすもの

米アップルが平成19年に初めてアイフォーンを発売してから今年で10年。スマートフォン（スマホ）は全世界で急速に普及してきた。10年前は、今の大学生の大半がまだ小学生。ある学生は「小さい頃からスマホがあることが普通」と話す。これも時代の流れだ▼LINEやツイッターなどSNSを使わない学生は、今や少数派だろう。文章や写真、動画をSNSに投稿し共感しあう。そこには喜怒哀楽さまざまな感情が入り乱れる▼若者たちの人間関係は、スマホの中に複雑に広がる。15人ほどの学生に聞いたが、多くの学生が人格ともいべきアカウントを複数使い、実社会の人間関係とデ

ジタル空間のコミュニティーの間を渡り歩くという。筆者からすれば至難の業のようにも思えることだ▼年の瀬の恒例イベント、今年の新語・流行語大賞は「インスタ映え」と「付度」が選ばれた。写真共有アプリのインスタグラムは個人の記録として写真の投稿を楽しむ人もいれば、他者からの反応、見栄えを意識する「インスタ映え」を狙う人も多いとか▼中には、そうした背伸びや周囲の反応に嫌気を覚える「インスタ疲れ」という現象まで生まれているといわれる。人間の欲求として周囲からの共感や反応はどうしても気になるものではあるが、少し行き過ぎではないか▼もう一つの流行語「付度」も然り。他人の思考や顔色を必要以上に意識しすぎる1年だったように思えてならない。

「縄文の哲学思想」と題して講演した本学の小林達雄名誉教授



本学の研究開発推進機構（井上順孝機構長）の発足10周年を記念し11月25日に開催された公開学術講演会。会場の常磐松ホールには多くの聴衆が詰めかけ、節目の年に講師として登壇したハーバード大学のヘレン・ハーデカ教授と本学の小林達雄名誉教授の講演に耳を傾けた。

まず、ハーデカ教授が「英語圏における神道研究のいま」と題して英語で講演。海外における日本の宗教研究について、「仏教研究は進んでいるが、神道に関しては米国の専門のコースを持つ大学が6校のみというのが現状。2次資料すら入手しづらい状況の中で、研究開発推進機構が『神道事典』を英訳したこと

は大きな刺激となった」と評価。今後の神道研究については、平成31年に斎行される大嘗祭に注目し、「千年以上続いてきた世界で最も古いと思われる皇位継承の儀式。観察・記録・検証・保存を行うことで日本の宗教・文化に関する研究を効果的に進めてもらいたい」と述べた。

「縄文の哲学思想」と題した小林名誉教授の講演では、「定住によって『ムラ』の生活を始めた縄文人は、定点観測によって新たな展開を迎えた。自然を対象化することによって縄文人の心が芽生えた」「1万年も続いた縄文文化の特徴である火焔型土器には、器としての無用の長物である突起が付く。彼らは

『腹の足し』にはならないが『心の足し』になるものを作っていた」など、縄文人の姿が紹介された。さらに、「冬に山眠る、春に山笑うといった日本的な自然観の中に縄文人の心が息づいている。その思考が（混迷を深める）世界の行く末にブレーキをかける重要な要素になる」と締めくくった。

講演会後の祝賀会で井上機構長は「国学院大学の力を発揮し続ける拠点であり続けてほしい」と述べ、機構の設立準備段階から関わってきた阪本是丸・研究開発推進センター長は「ますます本学のために尽力してほしい」と挨拶した。

研究開発推進機構 10周年学術講演会

ハーデカ教授らが熱弁

彬子女王殿下 収穫した新米のお食事会にご出席



彬子女王殿下（本学特別招聘教授）が総裁を務められる一般社団法人心游舎と本学の共催による「新潟コメ作りワークショップ」の食事会が12月6日に本学で行われた。

同ワークショップでは、新潟市内で5月に田植え、6月、8月に草取り、9月に稲刈りを行ってきた。食事会には、彬子女王殿下がご出席になり、坂口吉一理事長以下役教職員、学生16人と、収穫した新米をお召し上がりになった。

彬子女王殿下は「（お米作りを通して）それぞれの学生が何かを感じるきっかけになり幸いです」とお言葉を述べられた。神光輝紀君（神文1）は「農作業を経験し、農家の大変さやこうしてお米を食べられることの有難さを感じた」と感想を語った。

五輪金メダリストと 駐日ウガンダ大使が来校



12月4日、東アフリカのウガンダ共和国からベティ・グレース・アケチーオクロ駐日特命全権大使とロンドン五輪男子マラソンの金メダリスト・スティーブン・キプロティチ選手が来校し、坂口吉一理事長、赤井益久学長らと面会した。

キプロティチ選手は、前日に行われた福岡国際マラソンで2位に入り、平成32年の東京オリンピックのマラソンにウガンダ代表として出場することが決定した。双方からは五輪に向けたサポートなどが話題に上ったほか、両国の懸け橋になるべく多面的な交流の実現へ意見交換がなされた。

本学・国学院高校体育館が拠点 サンロッカーズ渋谷がユースを来春設立



男子プロバスケットボール・Bリーグの「サンロッカーズ渋谷」を運営する日立サンロッカーズ(千代田区)が、12月4日に本学及び国学院高校の体育館を拠点に来年4月にユースチームを立ち上げることを発表した。

記者会見には、日立サンロッカーズの岡博章社長、長谷部健渋谷区長、学校法人国学院大学から坂口吉一理事長、佐柳正三常務理事、津田栄国学院高等学校校長らが出席。坂口理事長は「渋谷の体育館からプロ選手が輩出されることを期待しています」と挨拶した。

サンロッカーズ渋谷ユースは、U15が来年4月時点で中学3年生以下、U12が来年4月時点で小学6年生以下の男子が対象。来年2月にクリニックとオープンスクールを開催するほか、3月に複数回のトライアウトで入会者を決め4月から練習を始める予定。

プロ経験生かす教員養成へ プロ野球選手会と特別選考入試協定を締結



協定に調印した赤井益久学長 左から2番目と日本プロ野球選手会の大島洋平理事長(同3番目)

プロ野球選手が引退した後のセカンドキャリア支援として本学と一般社団法人日本プロ野球選手会（大島洋平理事長）は11月21日、人間開発学部健康体育学科への特別選考入試に関する協定を締結した。選手会が大学と同種協定を結ぶのは初めてだが、本学は平成25年に公益社団法人日

本プロサッカーリーグ（Jリーグ）と締結し、これまでに2人が入学している。同協定は、プロ経験を生かし教員やスポーツ指導者として球界発展に貢献できる人材育成を目的としている。教職課程の履修などを条件に、入学金と4年間の学費を本学が合格者に給付する。赤井益

久学長は「セカンドキャリアを歩む選手に、新たな環境やチャンスを提供したい。本学の学生にも良い刺激になる」と話し、大島理事長は「新しい可能性が出てきた」と喜びを述べた。選手会によると、引退するプロ野球選手は年間100人以上。若手を対象としたアンケートでは7割前後が引退後に不安を感じると回答するなど、セカンドキャリア対策が急務とされている。

2氏に学位記を授与

国学院大学は、学位申請のあった吉岡孝・文学部准教授、烏谷知子・昭和女子大学教授に対し、審査の結果、学位を授与することを決定した。授与式は12月6日に渋谷キャンパス若木タワー会議室05で行われ、赤井益久学長から学位記が贈られた。

◎博士（歴史学）＝吉岡孝氏

吉岡氏の学位論文は「八王子千人同心における身分越境―百姓から御家人へ―」。主査は根岸茂夫・文学部教授。副査は上山和雄・大学院客員教授、佐藤孝之・同兼任講師・東京大学史料編纂所教授、谷口眞子・早稲田大学教授。

◎博士（文学）＝烏谷知子氏

烏谷氏の学位論文は「上代文学の伝承と表現」。主査は、谷口雅博・文学部准教授、豊島秀範・同教授、土佐秀里・同准教授、及川智早・帝塚山学院大学教授。



高校生対象2コンテスト 受賞者が決定 創作 文科学大臣賞は 横浜翠嵐高校

国学院大学・高校生新聞社主催「第21回全国高校生創作コンテスト（以下、創作）」「第13回『地域の伝承文化に学ぶ』コンテスト（以下、伝承）」の受賞者が決定した。今年は過去最多となる2万件（両コンテスト作品総数）に迫る作品が全国の高校から寄せられ、創作の文部科学大臣賞には、横浜翠嵐高校が、伝承の折口信夫賞には利根商業高校パソコン部が選ばれた。12月3日、渋谷キャンパスで表彰式が行われ、両コンテストの審査員と受賞者が一堂に会した。受賞者一覧は次号詳報予定。



第20回記念狂言の会「花子」を特別上演

20回目を迎えた大蔵流山本東次郎家による狂言鑑賞会「狂言の会」が11月21、22の両日、たまプラーザキャンパスで行われた。節目の年を記念して、狂言の最難曲とされる「花子（はなご）」＝写真Ⅱが演じられた。上演後には山本東次郎さん（昭36卒・69期文）による解説もあり、訪れた人たちはユニスコ無形文化遺産「能楽」の一翼を担う狂言の世界を堪能した。

「狂言の会」は人間国宝に認定されている東次郎さんの一門の協力で続いており、古典芸能に触れる好機として地元からも歓迎されている。抽選によって2日間で800人を招待することになっているが、「花子」が演じられるとあつて約1200通も応募が寄せられるなど人気の高さを証明した。

初日に「神鳴」「口真似」「花子」、2日目に「目近」「腹不立」「節分」の計6番組を上演。初日の開演に先立ち、文科大学の田口和夫名誉教授が「狂言の昔と今 その十九」と題して講演。「花子」を中心に資料を用いて2日間の番組を解説した。2日目は、地元小学校の6年生約400人が招かれ、国語の教科書にも載っている「柿山伏」を鑑賞。「蝸牛」の囃子を全員で謡うなど「お楽しみ」も盛りだくさんで、鑑賞した男子児童は「あんなに声が出るとは思わなかった。舞台には想像力を働かせる仕掛けが多くてびっくりした」と感心していた。

東次郎さんは「皆様のおかげで20回を迎えた。1年に6番組ずつきたので120番も演じた」と感慨深そうに振り返り、締めとして狂言小舞「海道下り」を披露した。

山本東次郎さん 日本芸術院会員に

日本芸術院は30日、芸術活動で顕著な功績があったとして、人間国宝で大蔵流狂言師の山本東次郎さん（昭36卒・69期文）ら8人を新会員に選んだと発表した。12月15日付で林芳正文部科学相が発令する。

本学卒業生で会員に選ばれるのは、歌人の岡野弘彦名誉教授、能楽の友枝昭世さん（昭37卒・70期文・人間国宝）に続いて3人目となる。

スポーツを通じ地域住民と交流 スポーツフェスティバル

11月26日、たまプラーザキャンパスで人間開発学部地域ヘルスプロモーションセンター主催の「第3回地域交流スポーツフェスティバル」が行われた。「スポーツ科学を、もっと身近に」をテーマに、本学教員と人間開発学部生が企画。地域住民を対象に、体力測定や栄養・体組成チェック、最新のスポーツテクノロジーを使用した動作分析などが行われた。また、球技場が自由解放され、澄み渡る秋空の下、参加者は思い思いに体を動かした。



サッポロビール、JRAと地域連携講座

今年6月に締結した本法人とサッポロホールディングスとの包括連携協定に基づく取り組みの一環として、11月29日にエビスビール記念館の端田晶館長＝写真＝による地域連携講座が開かれた。「明治期のビール国産化」をテーマに明治初期、西洋文明を象徴するビールの国産化に尽力した人々の歴史を紹介した。また、22日には、日本中央競馬会との連携講座が開催され、第1部でフリーアナウンサーの矢野吉彦氏と原山実子氏が「競馬と鉄道」と題して、第2部では「馬から見る日本史」と題してJRA競馬博物館学芸員の秋永和彦氏がそれぞれ講演した。



訃報 高橋元法人事務局長 逝去

元法人事務局長の高橋茂信氏が11月18日に逝去。84歳。納棺は20日、葬場祭は21日に執り行われた。喪主は長男の茂嗣氏。

高橋氏は昭和8年生まれ。31年本学文学部卒業。日光二荒山神社を経て33年本学事務局神道研修部書記見習。52年総務部校友課長、59年神道研修部事務室事務長、平成3年総務部次長、4年総務部長、8年法人参事・法人事務局長などを歴任。11年定年退職。

皇学館大学と連携し古事記学研究会

「皇学館大学連携古事記学研究会」が11月19日に渋谷キャンパス3号館3307教室で行われた。同会は文部科学省平成28年度「私立大学研究ブランディング事業」タイプB（世界展開型）に採択された『『古事記学』の推進拠点形成―世界と次世代に語り継ぐ『古事記』の先端的研究・教育・発信―』の研究事業の一環。研究協定を結ぶ皇学館大学の遠藤慶太准教授が「垂仁紀の祭祀伝承 イニシキイリヒコをめぐって」と題して発表した。

本学の谷口雅博・古事記学センター長・文学部准教授、笹生衛・神道文化学部教授がコメンテーターとなり、渡邊卓・研究開発推進機構助教の司会で3時間半にわたって活発な発表と討論が交わされた。



国内外の研究者が意見交換―国際研究フォーラム

11月26日、日本文化研究所と古事記学センターが主催する国際研究フォーラム「日本の宗教はどう教えられているか」が開催された。世界の中で、日本の宗教は実際にどのように教えられ、また教えることができるのかという課題に対して、チュービンゲン大学日本学科のダーヴィッド・ヴァイス氏ら国外の学生を対象とした授業の経験を持つ6人の講師が教育方法や現状における問題点などを報告し意見交換が行われた。

全体討議では、学生に対する評価方法やメディアの活用状況などについて、聴講者から活発な質問が投げかけられた。



国学院で成長した「私」

2 人の 4 年生に 学生生活の軌跡を聞く

単なる負けず嫌いでではなく向上心と自信に裏打ちされた「私」。
他人の意見を聞くことができた「私」。
志望した企業から内定をもらった
石戸明日香さん（経 4）と濱田将吾さん（法 4）は、
どのようにして 4 年間で成長をしたのか。
2 人に 4 年の軌跡を振り返ってもらった。



内定先 大手都市銀行（総合職） 石戸 明日香 さん（経 4）
ISHIDO ASUKA

もともとが負けず嫌いな性格。それが良い方向に現れ、「大学生活で世界が広がり、自分を変えられる」と話す。アルバイト、留学、ゼミなど異なる環境から刺激を受け、「向上心と自信」という逆境に立ち向かう身を身につけることができた。
「もって世界を広げたい」と 2 年生で始めた衣料品量販店でのアルバイト。店には外国人客も多く、語学力の重要性を感じてカナダへの留学を決意した。自ら計画し、初めての海外に一人で挑戦したことは大きな自信になった。異なる価値観に触れたことで、直面する課題をどうすればクリアできるかさまざまな視点で考えるようになったのも大きな収穫だ。

ちに、金融業界に惹かれたという。キャリアサポート課はもちろん、金融業界と接点が多い経理課の人たちも相談のつてくれ、本学特有の全学を挙げたサポート態勢が大きな助けになった。「営業職の方が向いているのでは？」という周りの後押しと「目指すなら高いところを」という負けず嫌いな気持ちも相まってメガバンクの総合職にエントリーした。

しかし、初めての面接は「大失敗だった」と振り返る。練習を積んだつもりが、いざ本番になると「内定が欲しい」という気持ちが焦りに変わり、いつもの自分を出せぬまま。帰りの電車では涙が止まらなかつた。家族などの支えもあったが、この失敗で「スイッチが入った」。

決め手となったのは「自分で何とかしなければ」という思い。自信を持つよう心がけ、バイト先の接客で培った「笑顔で、ハキハキと」を胸に面接へ臨むと、初対面の担当者との会話がスムーズにこなせるようになっていた。結果がついてきたことで自信も一段と深まった。

「自由」が増える大学生活。これから就活を迎える後輩には、「自分で行動すること」を考え、外に出ていろいろなことを見てほしい」とエールを送った。

逆境に挑む「向上心と自信」

「相手の立場で考える」身につく



内定先 ブルボン 濱田 将吾 さん（法 4）
HAMADA SHOGO

「野球を通じて多くのことを学び、成長させてもらいました」と 4 年の学生生活を振り返る。様々な学びや部活などを通じて、「相手の立場になって考えるクセを習得できた」という日々を、「思い通りの学生生活だった」と胸を張った。
高校まで硬式野球に打ち込んだが、「野球はそこまで」と決めていた。ところが、軟式野球部の練習に誘われ、意識高くプレーする先輩の姿に魅了され入部を決意。故障で投球できなくなり、練習に汗を流すチームメイトを眺めながらのランニングに悔しい思いもした。しかし、ひたむきな努力が報われて 2 年の夏に全国大会のマウンドを踏むことができた。「あの体験は大きかった」。

逆境を乗り越える強い心を獲得したと同時に、チームワークを重んじる野球を通じて「他人の声を聞く大切さ」も身につけることができた。3 年時には副主将を任せられ、意見が食い違った際に他の部員を交えて着地点を探るなど、互いが配慮し合つて良い空気を作り上げることの大切さを学んだ。
部活の幹部を務めたことで、体育祭本部役員として企業との渉外担当を受け持つという貴重な経験も積めた。戸惑いながらも役割を完遂できたのは、前年に渉外を担当した先輩からの具体的なアドバイスのおかげ。「昼頃は担当者不在のことが多く、夕方 6 時を過ぎると帰宅してしまふ」という忠告を聞き、勝手な思い込みで連絡を取ろうとしていた自分に気付かされた。十人十色の考えがあることを知り、自分の世界が広がる感覚を得た。様々な考え方に耳を傾けることで、新たな自分を確立できたのだ。

友人より早めに動き出した就職活動ではグループワークの機会も多かった。「自分はこう考えているけど、他の人はどうか」と「相手の立場」で考えられるようになったのは、これまでの経験が生きた証拠。1 年生の 6 月に志望を固めた食品業界からの内定という形で実を結んだ。

「キャリアサポート課や内定者アドバイザーなど、たくさんの方々が親身になって相談に乗ってくれた」と本学の暖かみも実感。4 年の学びは「人対人の営業職として働く上で大切なものを与えてくれた」と語りながら、暖かみを知ることができ自分の成長をかみしめている。

「部活の軟式野球を通じて相手の立場を考える心が身につきました」

充実の就活サポート

＊就勝、へ強～い味方

キャリアサポート課など就職担当部署では、就活を勝ち抜くため様々なサポート態勢を整えています。「困った…」そんな時には気軽に相談してください。

キャリアサポート課 ☎ 03-5466-0151

たまプラーザ事務課 ☎ 045-904-7704

教職センター（渋谷） ☎ 03-5466-0152

神道研修事務課 ☎ 03-5466-0155

分からないことを身近で解決 内定者アドバイザー制度

初めて経験する就活に戸惑う学生も多いが、就活を終えたばかりの先輩に教えてもらうのが一番の解決策。キャリアサポート課には大手優良企業や公務員に内定したアドバイザーが常駐し、後輩の不安を解消してくれます。

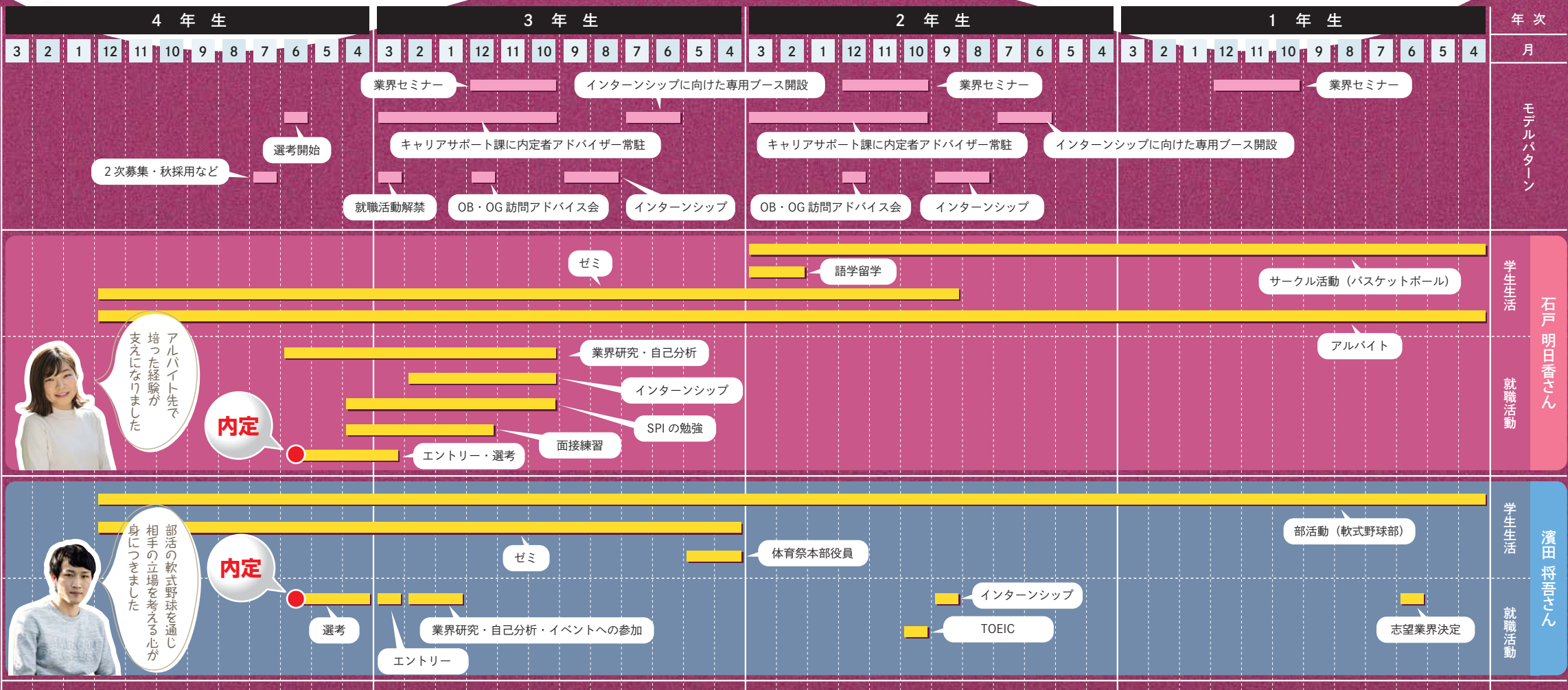
月・火・木・金 14 時～
水 12 時～

＊本当のところ、を教えてください OB・OG アドバイス会

志望先を決め、企業からも話は聞いたけれど……残業や給与など人事担当者には聞きづらい疑問も残りがち。ミスマッチによる早期離職を防ぐためにも、実際に働く OB・OG からのアドバイスは欠かせません。

2 月 17 日（土）午後

就活カレンダー



博物館 No.8 学芸員の資料ファイル

今月の資料 土偶

時代：縄文時代

（後期・晩期）

出土地：茨城県北相馬

郡利根町立木宮前

立木貝塚、埼玉県さいたま市岩槻区 真福寺貝塚ほか

超自然的存在の形象化と考えられる縄文時代のヒト形土製品。縄文時代草創期から作られますが、初期の土偶は局地的な分布で普及せず、形態は顔や手足を排した胴体の表現にとどまります。前期になると、板状土偶に顔や手足の表現が加えられ、中期に立像化し、大型のものや土器と融合する例も現れます。後期に土器と土偶のハイブリッドが出現し、晩期に東北地方を中心に遮光器土偶が広まります。

展示案内：土偶は、博物館の常設展示（考古展示室）でご覧いただけます。

ウェブサイト案内：

<http://museum.kokugakuin.ac.jp/>

i インフォダイジエス ト

 …… 在学生

 …… 卒業生

 …… 一般

 …… 受験生

■内容

■日にち

■時間

■場所

■対象

■申し込み

■料金

■問い合わせ

大学からの
お知らせ

国学院大学修学支援奨学金
(前期採用) を募集



- 支給金額30万円（2分割給費）
- 現1～3年の学部学生で、勉学意欲があり、経済的事由により修学困難な学業・人物とも優秀な者
- 平成30年1月31日(木)までに願書・要項を事務局窓口で受け取り、3月19日(月)・20日(火)の各事務時間内に文・経済・法・神道文化学部生は学生生活課、人間開発学部生はたまプラーザ事務課へ出願。詳細は要項で確認を。
- ▶学生生活課（☎03・5466・0145）
- ▶たまプラーザ事務課（☎045・904・7705）

大学入試に伴う入校制限



平成30年度大学入試センター試験および本学一般入試実施のため、会場となるキャンパスへの入校を別表の通りに制限します。なお、該当期間は課外活動を行うことができません。

博 物 館

岡本太郎記念館協力
企画展「いのちの交歓
—残酷なロマンティスム—」



- 平成30年2月25日(日)まで
※12月26日(火)～平成30年1月5日(金)、2月2日(金)は休館
- 10時～18時（入館は17時30分まで）
- 博物館企画展示室・ホール
- 無料

会期中に博物館が企画する各種イベントは次の通り。（すべてのイベントは無料。一部要申込）

- ▶いのちのつながりを考える(要予約)
 - ドキュメンタリー映画「カレーライスを一から作る」(出演:関野吉晴／武蔵野美術大学関野ゼミ生、監督:前田亜紀、96分)、トークセッション:関野吉晴(探検家・医師)×石井匠(博物館学芸員)
 - 平成30年1月19日(金)
 - 18時30分～21時
 - 博物館ホームページの申込フォームから、定員80人
- ▶音のいのちを考える
 - トークセッション「いのちの聲を聴く」:雲龍(笛奏者)×三上敏視

また、1月13日(土)は全日休講となります（12日(金)は通常授業）。

イベント

30

国際シンポジウム時空を超える(言葉)
—神話の翻訳をめぐる—

- 平成30年1月20日(土)
- 13時～17時30分
- 渋谷キャンパス学術メディアセンター常磐松ホール
- 無料
- 不要

学術資料センター研究フォーラム
戦前・戦後の沖縄写真
—画像アーカイブの意義と活用—

- 平成30年1月21日(日)
- 13時～17時
- 渋谷キャンパス学術メディアセンター常磐松ホール
- 無料
- 平成30年1月18日(木)までに本学ホームページの申込フォームもしくは往復はがきで。先着230名

- （音楽家／神楽・伝承音楽研究）
- 平成30年1月21日(日)
- 15時～16時30分
- ▶いのちとイノチの間を考える
 - トークセッション「いのちの裂け目」(井賀孝《写真家・山伏》×井上亜美《映像作家・猟師》)
 - 平成30年1月27日(土)
 - 15時～16時30分
- ▶モノのいのちを考える
 - トークセッション「非生命のいのち」(田中望《画家》×藤原彩人《彫刻家》)
 - 平成30年2月10日(土)
 - 15時～16時30分

ミュージアムトーク特集展示「神仏に誓う
—鳥羽藩御側坊主等起請文—」
千々和到(文学部教授)特別講義

- 平成30年1月20日(土)
- 14時～

ミュージアムトーク企画展
「いのちの交歓」《太陽の塔》
《明日の神話》のいのち

- 平成30年2月24日(土)
- 15時～16時
- ※博物館関連イベントの問い合わせは、☎03・5466・0359まで

◆大学入試センター試験

渋谷キャンパス		
日	時	立入制限区域等
1月12日(金) 入学試験準備日	17時以降	若木会館、百周年記念館（地下2階、4階）
	19時30分以降	120周年記念1号館
	21時以降	120周年記念2号館、3号館、130周年記念5号館
1月13日(土)・14日(日) 入学試験当日	終日	120周年記念1・2号館、3号館、130周年記念5号館、若木会館、百周年記念館（地下2階、4階）

※図書館は、1月12日:9時～22時、1月13日:10時～18時、1月14日:10時～18時で開館します
※1月12日17時～14日まで国際交流センターと院友会館の通用門は封鎖されます

◆本学一般入試

渋谷キャンパス		※博物館は2月2日、26日のみ休館	
日		時	立入制限区域等
A日程	2月1日(木) 入学試験準備日	終日	120周年記念1・2号館、130周年記念5号館
		15時以降	若木会館、百周年記念館（地下2階、4階）
		17時以降	3号館
		20時30分以降	学術メディアセンター
	2月2日(金)～4日(日) 入学試験当日	終日	120周年記念1・2号館、3号館、130周年記念5号館、学術メディアセンター（博物館を除く）、若木会館、百周年記念館（地下2階、4階） ※若木タワー（2月2日(金)のみ立入制限とする）

日		時	立入制限区域等
B日程	2月24日(土) 入学試験準備日	終日	120周年記念1・2号館、130周年記念5号館
		13時以降	若木会館、百周年記念館（地下2階、4階）
		17時以降	3号館
	2月26日(月) 入学試験当日	19時30分以降	学術メディアセンター
		終日	120周年記念1・2号館、3号館、130周年記念5号館、学術メディアセンター、若木会館、百周年記念館（地下2階・4階）

※2月1日17時～4日、24日17時～26日まで国際交流センターと院友会館の通用門は封鎖されます

※2月1日17時～4日、24日17時～26日まで国際交流センターと院友会館の通用門は封鎖されます

たまプラーザキャンパス			
日		時	立入制限区域等
A日程	2月1日(木) 入学試験準備日	終日	1・2・3・5号館、体育館
	2月2日(金)・3日(土) 入学試験当日		

キャリアサポート

面接&グループディスカッション
対策講座



- 就職活動において避けて通れない面接や、面接では分からない個性を見るためのグループディスカッション（GD）は個人で対策が取りづらいもの。講座では面接やGD突破のポイントを解説し、自ら経験を積む実践型トレーニングも行います。毎回とも同じ内容です。
- ・■平成30年1月10日(木)3限または5限、11日(木)6限
- 3年生
- ※詳細確認・申し込みはK-SMAPYのキャリアサポートシステムから

LLC

TOEIC® 学内テスト



- LLCが団体受験特別制度（IP: Institutional Program）として実施するものです。公開テストとIPテストのスコアの有効性はTOEIC主催団体により同一とされています。※企業、大学等により基準が異なる場合もあります
- 平成30年2月9日(金)
- 12時50分集合、15時35分散（実際の試験時間は2時間）
- 渋谷キャンパス（教室は試験1週間前をめどにお知らせします）
- 3500円
- 本学在学生、先着250人
- 平成30年1月25日(木)正午までに、証明書自動発行機で証紙を購入し、各キャンパスのLLCに提出
- ▶渋谷キャンパス: LLC（学修支援センター相談室〈3号館3306教室〉）
- ▶たまプラーザキャンパス: LLC YOKOHAMA OFFICE（1号館304教室）
- ※年末年始は事務室の開室時間が異なるので、大学HPで確認を

に。彼の地盤の軌跡を明らかにした。

前には立憲政友会、戦後は自民党に属した加藤隼五郎という一保守政治家と彼の地盤の軌跡を明らかにした。

一読いただければ幸いです。

上でも参考にならう。ご

は、日本近現代史のみならず、現代政治を考える

た加藤とその地盤の軌跡

時代と共に変化を続け

込まれるに至る。

後の自民党の地盤に組み

の地盤は、彼を通じて戦

の後更新され続けた加藤

めた。戦前に生まれ、そ

には衆議院議長に上り詰

る。復帰後も支持者のた

め奔走を続け、昭和33年

に衆議院議長に上り詰

めた。戦前に生まれ、そ

の後更新され続けた加藤

の地盤は、彼を通じて戦

後の自民党の地盤に組み

込まれるに至る。

時代と共に変化を続け

た加藤とその地盤の軌跡

は、日本近現代史のみならず、現代政治を考える

上でも参考にならう。ご

一読いただければ幸いです。

平成29年10月22日、3年ぶりの衆議院議員選挙が行われた。一般に選挙戦を左右するのは「地盤」（個人後援会などの集票組織）、「看板」（知名度）、「鞆」（資金力）の「三バン」といわれる。先の選挙でも、弱体化傾向とはいえ他党より堅い自民党の地盤の存在が示された。ある自民党大物議員も、政治家として堂々と発言するには「しっかりと後援会を持つているかどうか全て」と語っている。地盤形成は現代政治家にとって重要だといえよう。

大正9年、「政治道徳の向上」を掲げて発足した加藤の個人後援会は、大正14年の普通選挙法導入後に支持者を惹き付けるため多彩なイベントを開催した。また、加藤は「政治と生活」を高唱し支持拡大に努め、業界団体とも結びつき、これを後援会に組み入れた。加藤は戦前はもちろん、太平洋戦争中ですら「族議員」の如く業界のため奔走した。公職追放で一度キャリアを断たれた後、加藤は後援会を再生して戦後政界へ復帰する。復帰後も支持者のため奔走を続け、昭和33年には衆議院議長に上り詰めた。戦前に生まれ、その後更新され続けた加藤の地盤は、彼を通じて戦後の自民党の地盤に組み込まれるに至る。



若木が丘
だより

文学部 助教
手塚 雄太

政治家の地盤、
その形成と変容

Miss&Mr.国学院が決定

11月24日、渋谷キャンパス百周年記念館記念講堂で、本学イベントサークルideed（アイディード）が主催し今年度の



ミス国学院とミスター国学院を決める「国学院大学Miss & Mister contest 2017」が開催された。観覧者などの投票の結果、ミス国学院に西脇梨紗さん（外文3）、ミスター国学院に青木雄大さん（経ネ3）が選ばれた。イベントでは、ファイナリスト男女5人ずつがそれぞれ自らの個性をアピールしたほか、同サークルがプロデュースした音楽アーティスト・いつみさんのライブなどが繰り広げられた。

ラグビー部

釜石シーウェイブスと対戦

本学ラグビーフットボール部は、岩手県協賛によるラグビーの「黄金の國、いわて。」プレゼンツ招待試合に招かれ、12



月3日、釜石市球技場で釜石シーウェイブス（SW）と対戦した。釜石SWはラグビートップリーグの第2部に相当するトップチャレンジリーグに所属する。この試合は今年度から岩手県が行うトップスポーツチームとの連携の一環で一般に無料で公開された。試合は、後半に1トライ1ゴールを挙げたが7-50で同部が敗れた（写真同部提供）。

また、試合を前に選手たちは、東日本大震災で被災した釜石市街などを視察、犠牲者に黙とうを捧げた。

硬式野球部

小学生を招き野球フェスタ

11月19日、たまプラーザキャンパス野球場で硬式野球部が主催する「野球フェスタ」が行われ、近隣の小学生とその保護



者が多数来校した。この企画は、同部が主催し、運営を部員たちが行う。小学生たちは、キャッチボールやストラックアウト、トスバッティングなどに挑戦し、人工芝の広い野球場には、ボールを追いかける子供たちと学生の歓声が響き渡った。

「大きな反響に驚き」「次こそリベンジ!!」 学食バトル 企画者の声

初の試みとなった本学と早稲田大学による「学食バトル2017」。本企画に込めた思い、そして次回への意気込みを両大学の学生、舞台となった「和（NAGOMI）」の店長に迫った。〈取材〉本間

メニュー考案はもちろん、ポスター作成・SNSでの宣伝など初めてのことで苦悩しました。学食関係者も巻き込んだ企画で、プレッシャーも大きく、不安から一時期は「和」の前を通ることすら怖かったです。コラボメニューの販売後、SNSを中心に大きな反響をいただいたときは、企画がついに実現したことに感動しました。



学生アドバイザー
尾澤 桃子さん

学食研で半期に一度発表している学食ランキングで常に上位にいる国学院大学の「和」でメニューを作りたいという思いがありました。創立18年目の学食研ですが、他大学との共同企画の経験はほぼありません。関係者の全面協力のおかげで、不安は期待に変わっていきました。今回はバトルに負けましたが、次こそはリベンジを果たし、勝利します！



早稲田学食研究会
木寅 皓介さん 奥田 晨生さん

今回のような共同企画は「和」として、初めての試みでした。普通、ごはんの上に乗っているローストビーフをうどんに載せるという発想には驚かされました。甘いたれがベーシックなローストビーフを、わさびたれを使った味付けに仕上げたのも独特です。このような学生ならではの斬新な提案に出会い、非常に刺激になりました。



和(NAGOMI)店長
坂入 信輔さん

柔道・講道館杯

柔道部

院友 糸井選手が81kg級3位

平成29年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会が11月11日・12日に、千葉ポートアリーナ（千葉市）で開催された。本学柔道部の部員、院友では8人が出場し、男子81kg級で糸井滉平選手（大阪府警、平28卒・124期法）が3位に入った。

糸井選手は、初戦から安定した試合運びで1回戦から勝ち進んだ。準決勝で敗れたが、3位決定戦で同大会優勝2回の長島啓太選手（日本中央競馬会）を延長戦の末に退けた。

このほか、男子60kg級に藤阪泰恒選手（健体3）、同66kg級に久家寛己選手（法4）と中川直治選手（セントラル警備保障、平29卒・125期神文）、同73kg級に島田隆志郎選手（健体2）と大畑侑介選手（宮崎県警、平25卒・121期経）、同90kg級に二見省吾選手（経3）、北野裕一選手（パーク24、平25卒・121期経営）が出場。島田選手が2回戦で、五輪メダリストの海老沼匡選手（パーク24）に敗れるなど上位進出はならなかった。



男子81kg級で3位に入った糸井選手

オトナ。銘

夢はあきらめない

千野隆司さん（作家、昭49卒・82期文）

学問の師や人生の先輩たちが目指す理想の姿とは。彼らの人生を支える言葉とともに、目標とする大人像と人生観を取材する。今回は10月に新刊『おれは一万石』シリーズ(双葉文庫)を出版した、院友で小説家の千野隆司さんに人生の教訓を聞く。

——新刊『おれは一万石』では、逆境にめげずにやりたいことを追いかける主人公が描かれています。座右の銘の「夢はあきらめない」にもつながりますね。

千野さん（以下、千野） 主人公の大名の次男・正紀が、「やりたい」と思ったことを叶えるために婿入りするところから話が始まります。江戸時代は今と違い、身分などが厳

しく統制された社会です。「やりたい」と思ったことを実現するのは難しい。ですが人間の心は、時には社会を超えたいと思います。『おれは一万石』でも「夢はあきらめない」ということを表現しています。

——「夢はあきらめない」は、人生の中でどのように生きていますか。

千野 国学院大学には、小説家になりたいと思って入学しました。しか

し、そもそも文学部は小説家養成の学部ではないので、現実的には厳しかったです。その中で、小説家になるという夢を追いかけて、中学の教員をしながら文学賞に応募し続けました。そのおかげで小説家にはなれましたが、まだ、自分の中で目指している小説は書けていないと思っています。今も「夢はあきらめない」という言葉は私の中で生きています。



——学生にエールをお願いします。

千野 「何かをしたい」という思いは、大小いろいろあると思います。どんなに難しい夢でも持ち続ける限り、可能性はゼロではない。「やりたい」と強く思うのであれば、夢はあきらめずに持ち続けられれば良いと思います。

——ありがとうございました。

〈取材〉石原

K:DNA——創立135年目を迎えた国学院大学の「遺伝子」…個人・個性を尊重する校風 若いエネルギーが未来を変える

●編集 総合企画部広報課/学生アドバイザーメディアチーム [永井伶奈(日文4)/尾澤桃子(法3)/本間由(日文3)/柳下桂一郎(史3)/後藤哲治(日文2)/山本莉紗子(外文2)/石原礼菜(日文1)/鈴木亜美(日文1)]

学食バトル2017

初代王者は ゆず豆乳うどん

早稲田大学

LOSE

本学学生
考案

【ローストビーフうどん(冷)】
早大のスクールカラー「えんじ色」にちなみ、迫力満点のローストビーフを贅沢にのせた一品。わさびにオリーブオイルを合わせた特製ソースが、味にも彩りにもアクセントを加える。



国学院大学

WIN

【ゆず豆乳うどん(温)】
テーマは、本学のイメージである「和」。しょうがの効いた豆乳ベニズのスープにはたっぷりの野菜が入っており、上にはゆずの香りも食欲をそそる。寒いこの時期にちょうど良い、身も心も温まる二品だ。

本学と早稲田大学の学生による「学食バトル2017」が本学渋谷キャンパス学食「和 (NAGOMI)」を舞台に繰り広げられ、販売数231食対210食の僅差ながら本学考案の「ゆず豆乳うどん」が初代王者に輝



いた。11月20日に渋谷キャンパス3号館前特設ステージで開催された結果発表イベントに臨んだ両大学の学生は、「『国早戦、として定着させたい』と意欲を語った。

今回が初の試みとなる学食バトルは、本学の魅力発信をしている学生広報団体「学生アドバイザー」と、日本最古の学食研究サークル「早稲田大学学食研究会」の共同企画。讃岐うどんを使ったオリジナルメニューとして、学生アドバイザーが「ゆず豆乳うどん」・学食研が「ロ

ーストビーフうどん」(ともに500円)をそれぞれ考案。「和」で13～17日の5日間提供され、その販売数で勝敗を競った。結果発表では、両大学の学生が企画の主旨や団体の活動内容を説明後、両大学マスコットキャラクターの「こくぴょん」と「WASEDA BEAR」が登場し、バトルの勝敗を記したボードを掲げ本学の勝利を伝えた。初代王者のゆず豆乳うどんは27日から数量限定で再販売された。企画に携わった学生アドバイザーは次の通り(敬称略)。

早稲田大学学食研究会 2017年後期学食ランキング

1位	東洋大学 6号館B1学生食堂
2位	国学院大学 和 (NAGOMI)
3位	千葉商科大学 The University DINING

逸見佳歩(外文4)、尾澤桃子(法3)、豊田菜々美(日文2)、石原礼菜(日文1)

【Ⅱ面関連記事】〈取材〉尾澤

Campus Clip

今の大学生をきりとる

卒業論文、ついに完成!

霜田優美さん(外文4)

大学生生活の集大成である卒論を完成させた霜田さん。途中でテーマを「特別支援教育」に変えたが、「計画性を持って進められた。研究はこれからも続けたい」と清々しい笑顔で語る。春からは教職に就く霜田さん。春に備え勉強も続けながら、友人たちと卒業旅行をするなど、残りの大学生生活を謳歌したいという。〈取材〉山本

オリジナルソースでいただく焼きそば

今年、ゴールデンウィーク明けにオープンした焼きそば専門店「テッパンキッチンHIROO」。目の前の鉄板で調理される焼きそばは、もちりとした中太麺に、16種類の調味料を使ったオリジナルソースが絡む。学生には目玉焼き、大盛り、小ライスのいずれかのサービスがある。こだわりのつまった焼きそばはやみつきになること間違いなし!



オリジナル焼きそば ¥850
目玉焼きトッピング ¥50 (学生は無料)

〈取材〉山本

ちょっと寄り道

テッパンキッチン HIROO



東京都渋谷区東4-9-10 KS広尾ビル1階
渋谷キャンパスから徒歩1分
渋谷駅から徒歩17分
連絡先: 03-6427-9447
定休日: 日曜日
営業時間: [昼] 12:00~15:00
[夜] 17:00~22:00 (LO 21:30)